

次号予告

特集 統計モデル選択

統計モデル選択の概要	松嶋敏泰 (早稲田大学)
AICとMDLとBIC	赤池弘次 (統計数理研究所名誉教授)
確率的コンプレキシティと学習理論	山西健司 (日本電気)
経営工学におけるモデル選択	関 庸一 (群馬大学)

編集後記●私事ですが、この4月に和歌山に転勤となりました。企業にてORの応用研究・開発18年、本社にて情報化企画3年。その後の製鉄所システム部勤務でありまして、所内経営会議に出席したり、工場巡視をしたりと、今までとは異なり、ものづくりの現場近くにおいて、楽しさと品質・コスト・納期に対する厳しさを感じています。新しいパイプ工場建設も真っ最中でありまして、近くに来られる時には、ご一報願います

●閑話休題。先日、製鉄所の生産管理部門のキーマンと会話の機会があり、「工場長は、頭の中にモデルをもっている」ということになりました。たとえば、ジョブ・ショップ型工場があるとする。工場長は、まず製造の中心で、ネックになりやすい主要な設備を対象としたモデルをもつ(シンプルモデル)。稼働率・品質・設備間仕掛在庫・納期はどうか? トラブル時の勘所・工場運営の重点をどこにおくか? 生産量・品質・コストはどうか?(目的関数)。そして、工場長は経験とともに、シンプルモデルに他の補助的設備を追加し

て、課題に合わせモデルをより細かくしていくとのこと。いわば、工場長は、多くの作業員をリードする指揮官として頭の中に工場運営経験にもとづいたモデルを持ち、その時の重点課題を特定して、その解決方針をだし課題にたちむかっているのである●今月の特集は「ユーザのための数理計画入門」である。各テーマともその分野のトップクラスの方々の執筆であり、読んでいて楽しく、かつ力作ばかりである。「数理計画は単に数学モデルの解法道具だけではなく広く問題解決の道具である」「モデル化に当たっての大切なポイントは、重要な変数・制約および目的関数を厳選し、なるべくシンプルなモデルを作って解く、ということを反復することだ」と説く。まさに、工場長と同じだ。工場長は数式は使わないにしても頭の中でこのプロセスをおこなっているに違いない。これぞOR!!●ORとは、生産現場に近くいると、真に、「解決のためのモデルづくりとその反復」という感を強くする。本特集の続編をぜひお願いする次第です。(上野 信行)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 逆瀬川浩孝(早稲田大学) **副委員長** 山上 伸(東京ガス株)、山下勝比掬(株東芝)

委員 伊藤裕康(株富士通研究所)、上野信行(住友金属工業株)、葛山康典(早稲田大学)、國澤直樹(東京電力株)、栗田治(慶応義塾大学)、佐賀井重雄(財電力中央研究所)、高橋真吾(東京工業大学)、高橋敬隆(日本電信電話株)、中里宗敬(青山学院大学)、西尾チヅル(筑波大学)、服部正太(株構造計画研究所)、水野眞治(統計数理研究所)、矢島安敏(東京工業大学)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成8年6月号 第41巻 第6号 通巻426号

代表者 村井 勉

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 逆瀬川 浩孝

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円, 郵送料含) 年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ